

群馬大学医学部附属病院



群大病院だより

GUNDAI NEWSLETTER

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町三丁目39-15 / TEL 027-220-7111(代) / ホームページ <https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>

患者さんご自身の診療記録を共有する取り組み

—患者参加型医療の実現に向けて—

群馬大学大学院医学系研究科
放射線診断核医学科長・放射線部長・病院長補佐
対馬 義人

「患者参加型医療」とは、患者さんが単に医療を受けるだけでなく、ご自身の病気や治療を理解し、医療者と一緒に考え、決めていく医療のかたちです。そのためには、診療に関する情報を患者さんと医療者が共有することが大切になります。

これまで診療記録(カルテ)は医療者のための記録と考えられてきました。しかし本来は、患者さんご自身の情報であり、医療に参加するための大切な基盤となるものです。

当院では2019年より、入院患者さんを対象に、院内の端末からご自身のカルテをリアルタイムで閲覧できる仕組みを導入してきました。この取り組みは、単なる「開示」や「閲覧」ではなく、患者さんと医療者が情報を「共有」することを目的としています。実際に利用された患者さんからは高い評価をいただき、医療者の理解も広がっています。

さらに2026年3月からは、NOBORIを用い、外来患者さんもスマートフォンで診療記録を共有できるようになりました。CTやMRIなどの画像も含め、自宅などで繰り返し確認することができます。診察時に十分理解できなかった内容も、ご自身のペースで見直したり、ご家族と共有したりすることで、理解が深まり安心につながると考えています。

また、他の医療機関を受診する際にも、ご自身で診療内容や処方方を伝えることができ、特に災害時などに



は大きな助けとなります。

一方で、診療記録には専門的な内容や、診断が確定していない情報なども含まれます。内容によっては不安を感じることもあるため、その点をご理解いただいた上でご利用いただくことが大切です。

診療記録の共有は、医療のあり方をよりよいものへと変えていく可能性があります。当院では今後も工夫を重ねながら取り組みを進めてまいります。ぜひ一度、ご利用ください。

も く じ

- 患者さんご自身の診療記録を共有する取り組み
—患者参加型医療の実現に向けて— 1 ページ
- 重粒子線治療開始15周年記念事業を開催しました! 2 ページ
- 院外処方せんの推進について 2 ページ
- 患者支援センター新副センター長の挨拶 3 ページ
- 群馬県がん診療連携拠点病院地域懇話会・市民講座の開催報告 3 ページ
- 令和7年度アピアランス支援モデル事業「アピアランスケア研修会」開催報告 3 ページ
- 病院探検!「材料部」 4 ページ
- ぐんまのうしん君が「病院ゆるキャラ総選挙2025」で3位入賞しました!! 4 ページ
- 「小児診療における安全を考えるシンポジウム」を開催! 4 ページ

重粒子線治療開始15周年記念事業を開催しました！

重粒子線医学センター 教授 **大野 達也**

2025年10月25日（土）、「重粒子線治療開始15周年記念事業」を開催しました。記念講演会では、これまでの治療実績や本学における重粒子線治療の特長、今後の発展の方向性について報告と講演が行われました。参加者からは「医療の質の高さや地域医療への貢献を実感した」「最新の治療技術や研究の進展を直接聞くことができ理解が深まった」などの声が寄せられました。講演会の様子は本学公式YouTubeチャンネルで公開しています。

また、同時開催の施設見学会には約200名が参加し、加速器や治療室など通常は公開していない施設内部を見学しました。各所では医療スタッフが説明や質疑に対応し、「直接話を聞くことで理解が深まった」「最先端医療を身近に感じられた」といった感想が寄せられました。

重粒子線医学研究センターは、今後も患者や地域社会とともに歩み、医療の発展と地域貢献に取り組んでまいります。今後ともご支援・ご協力をお願いいたします。



群馬大学重粒子線治療15周年記念事業・記念講演会 動画
<https://www.youtube.com/watch?v=oLtEMQJrNal>

院外処方せんの推進について



薬剤部
 部長 **山本 康次郎**

当院では、「医薬分業」の推進と、安全で適切な薬物療法の提供を目的として、院外処方せんの発行を進めております。いつも同じ保険薬局を「かかりつけ薬局」としてご利用いただくことで、お薬の飲み合わせや重複、副作用の確認などを継続して行いやすくなり、より安全で安心なお薬の使用につながります。当院では、院外処方せんをより便利にご利用いただけるよう、処方せん送信サービス「やくばと」をご紹介します。また、前橋市薬剤師会のご協力により、市内保険薬局のご案内や、処方せんのFAX送信サービスもご利用いただけます。

近年は入院患者さんに対する薬物療法がより専門的・高度になっており、当院では入院医療の質と安全をさらに充実させるため、薬剤師の業務体制を見直しました。これに伴い、令和8年4月1日より、外来患者さんへのお薬のお渡しは原則として院外処方へ移行しております。現在、外来で処方されたお薬は、病院外の保険薬局でお受け取りいただいております。外来投薬窓口および調剤済みお薬番号の電光掲示板の運用は終了いたしました。

なお、一部のお薬につきましては、法令上または診療体制上の理由により院外処方に対応できない場合があります。その際には時間外お薬お渡し窓口でお渡ししております。お薬の準備状況は、窓口での表示に加え、患者さんのスマートフォンでも確認できるようにいたしました。

当院では、今後も医療の質と安全の向上に努めてまいります。患者さんにはご不便をおかけする場合がございますが、何卒ご理解とご協力をお願いいたします。



患者支援センターからのお知らせ

患者支援センター新副センター長の挨拶

患者支援センター 副センター長 矢島 千景



令和8年4月より、根井ひとみ先生の後任として患者支援センター副センター長に着任いたしました矢島千景と申します。

当センターは、地域連携、患者相談窓口、入退院センター、退院調整、がん相談支援センター、難病相談支援センター、脳卒中・心臓病等総合支援センター、セカンドオピニオン外来の部門で構成されております。医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、事務職員を合わせて、総勢約40名の多職種が連携して業務に取り組んでおります。

相談窓口では、医療福祉、社会保障制度、経済的な問題などについての相談や、がんや難病に関する相談など、様々な相談を受け付けております。また、地域の病院や診療所との連携として、FAX予約やセカンドオピニオンなども受け付けております。以上のような取り組みを通して、患者さんが安心して医療を受けられるようサポートいたしますので、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

群馬県がん診療連携拠点病院 地域懇話会・市民講座の開催報告

群馬県のがん対策推進を目指し、「群馬県がん診療連携拠点病院地域懇話会・市民講座」を、当院ホームページにおいてオンデマンド配信を予定しております。

今回は、群馬大学大学院医学系研究科 神経精神医学講座 神経精神医学分野 教授の神出 誠一郎先生と NPO 法人つながるん場 代表理事の松井 葉子先生からご講演をいただきます。配信期間は2026年8月1日から2027年3月31日までとなっております。多くの皆様にご視聴いただければ幸いです。

市民講座 オンデマンド配信 視聴無料

配信期間 2026年8月1日(土)～2027年3月31日(水)
※期間中いつでも視聴可能です。

プログラム
司会・小和瀬 桂子 群馬大学医学部附属病院患者支援センター長
講師 神 誠 教授 群馬大学医学部附属病院長

講演1
「がん患者さんを支えるご家族のこころのケア
～支援する人のこころも大事～」
群馬大学大学院医学系研究科 神経精神医学講座 神経精神医学分野 教授 神出 誠一郎先生

講演2
「がん経験者として、がんピアサポーターとして」
NPO法人つながるん場 代表理事 松井 葉子先生

視聴方法 群馬大学医学部附属病院ホームページからご視聴いただけます。ご不明な点もお問い合わせいただけますので、ぜひご連絡ください。
URL: <https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?p=12646>

申込み 不要 費用 無料
お問い合わせ先 TEL: 027-220-7854 群馬大学医学部附属病院 患者支援課
共催 群馬県がん診療連携協議会 / 群馬県 / 群馬大学医学部附属病院

令和7年度 アピアランス支援モデル事業「アピアランスケア研修会」開催報告

令和8年3月14日(土)、国立がん研究センター中央病院アピアランス支援センター長の藤間勝子先生をお招きし、「アピアランスケア研修会」を開催しました。アピアランスケアとは、がん治療に伴う脱毛や皮膚の変化など、



外見の変化に対する不安やつらさに寄り添い、患者さんが自分らしく過ごせるよう支援する取り組みです。

研修会では、外見の変化との向き合い方や、気持ちの負担を軽くする心理社会的ケアについて、わかりやすくお話いただきました。医師・看護師・社会福祉士など多職種が参加し、日頃感じている不安や疑問を共有しながら、患者さん一人ひとりにとってより良い支援を考える貴重な機会となりました。



病院探検！「材料部」



安全な手術を支える、滅菌の舞台裏

材料部 部長・眼科学 教授 秋山 英雄

材料部では、手術などで使う器材の洗浄と滅菌を行っています。手術などが終わると使用した器材は材料部へ運び込まれ、洗浄して器材に不具合がないか点検をして滅菌を行い、手術部などへ提供します。

器材に汚れが残っていると、患者さんは感染を起こしてしまいます。きれいに洗浄できたかどうか、きちんと滅菌できたかどうかを毎回検証し安全な器材を提供しています。

患者さんの感染がゼロになることを目指し取り組んでいます。



滅菌作業の様子



ぐんまのうしん君が「病院ゆるキャラ総選挙2025」で3位入賞しました!!

群馬大学医学部附属病院 脳卒中・心臓病等総合支援センター公式キャラクター“ぐんまのうしん君”が、2025年11月16日に大阪で開催された、病院ゆるキャラ総選挙2025（病院マーケティング サミットJAPAN主催）の全国決勝で3位入賞しました。

この結果は、日々応援してくださった皆さまの温かいご支援の賜物です。心より感謝申し上げます。これからも、医療と地域をつなぐ小さな架け橋として、県民の方の健康寿命が延伸することを大きな目標として頑張っていきたいと思えます。

引き続き皆様からのご声援とご支援をお願い申し上げます。



ぐんまのうしん君

決勝の舞台はとても緊張したけれど、これまで一緒に学んだ日々を思い出して、最後まで頑張りました。この結果はゴールではなく、“健康”と一緒に考える旅の途中です。これからも、まっすぐに伝えていきます。本当にありがとうございます！

ぐんまのうしん君が活躍する群馬大学医学部附属病院 脳卒中・心臓病等総合支援センター HP もぜひご覧ください！



「小児診療における安全を考えるシンポジウム」を開催！

多職種人材育成のための医療安全教育センター（PSEC）

2026年2月11日、「小児診療における安全を考えるシンポジウム」を開催しました。WHO「世界患者安全の日」のテーマ「すべての新生児と子どもに安全なケアを」にちなみ、小児診療における安全や子どもの権利、療養支援について講演と事例紹介が行われ、全国から約220名が参加しました。アンケートでは「小児医療安全を学ぶ貴重な機会だった」「自施設でも実践したい」といった声が寄せられ、小児診療の安全を多角的に考える機会となりました。



群馬大学医学部附属病院「群大病院だより」

第20号 2026年6月

編集 ■ 群大病院だより編集委員会

発行 ■ 群馬大学医学部附属病院

発行日 ■ 2026年6月16日

ホームページ ■ <https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>

病院の理念

大学病院としての使命を全うし、国民の健康と生活を守る。

基本方針

安全・納得・信頼の医療を提供する。
次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。
明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。
医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。